

バリュエーションの取組実績: 案件数と会計基準

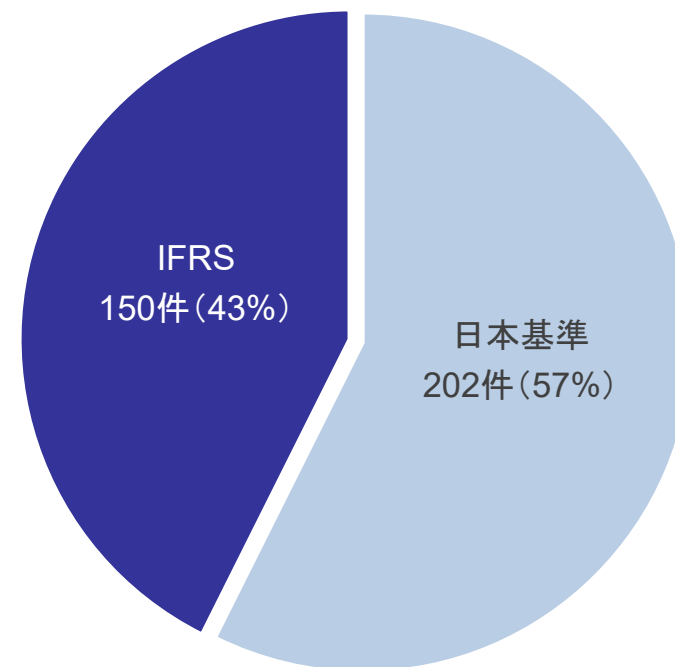
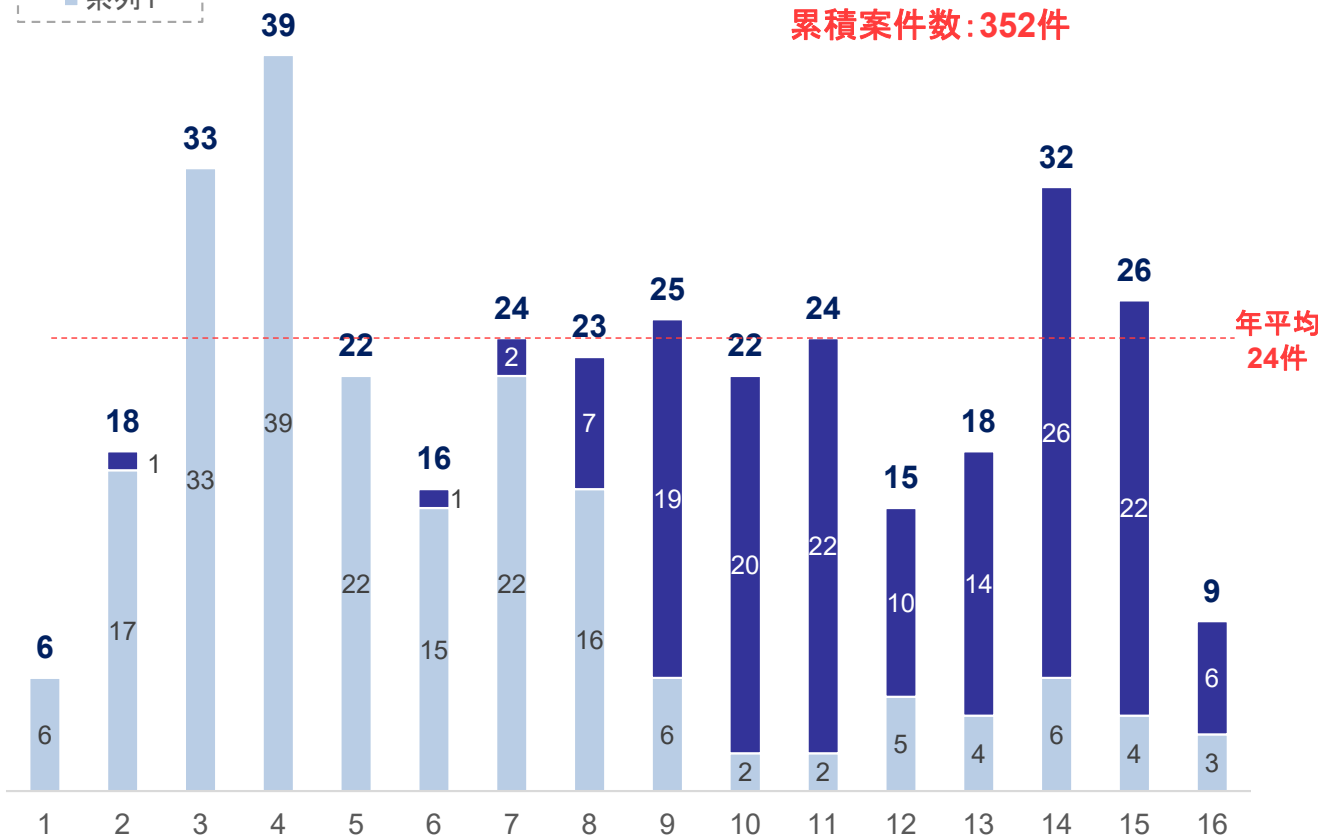
- ▶ 弊社は、バリュエーションに関して、2005年8月の会社設立以降、2020年5月末時点で計352件の案件実績がございます。
- ▶ 以前は、日本の会計基準に基づく評価がメインでしたが、近年は上場企業でIFRS(国際会計基準)を導入する企業が増えていることから、近年は年間全体の70%以上をIFRSでの評価が占めており、累計実績においてもIFRSでの評価案件が43%まで上昇しています。

全て単位: 件数

2020年5月末時点

案件数推移

会計基準



IFRSの中に米国基準で実施した1件も含めています

‘13以降に限定すると、IFRSが全体の81%を占める

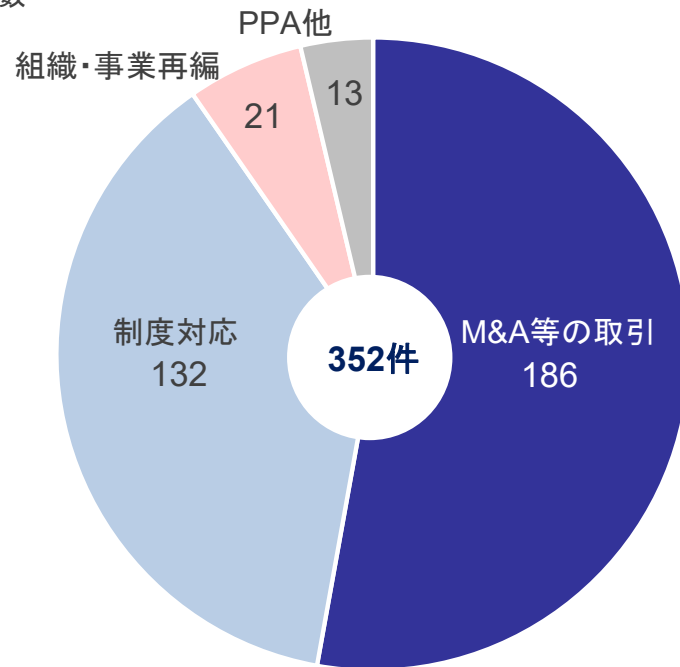
バリュエーションの取組実績: 評価目的と関与年数

- ▶ バリュエーション実施のご依頼目的としては、M&A等の取引が186件と最も多く、次に減損テスト等の制度対応が132件と続いております。
- ▶ 減損テスト目的の評価は、監査対応や評価の継続性の観点から、減損テストの実施毎にご依頼頂くことが多く、2回以上の評価を行う対象企業の割合が多くなっております。

2020年5月末時点

評価目的

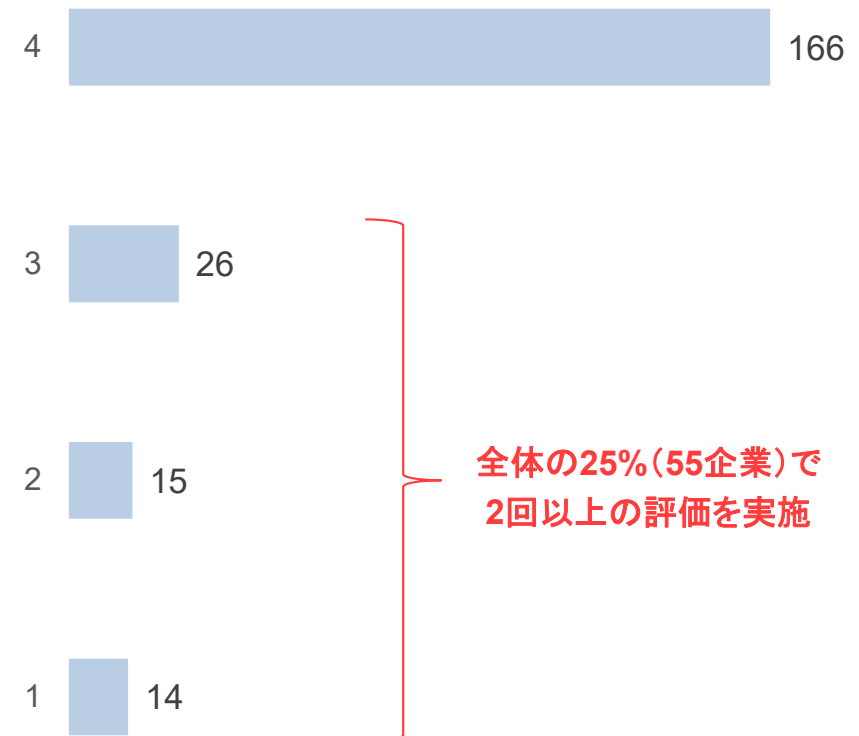
単位: 件数



1. M&A等の取引……M&A時の株式価値算定、会社分割・事業譲渡時の事業価値算定
2. 制度対応……減損会計に基づく評価、IFRS準拠の公正価値算定
3. 組織・事業再編……グループ内での統合や分割等のための株式価値や事業価値算定
4. PPA他……M&A実行後のPPA、その他特殊用途

対象企業毎の評価実施回数

単位: 企業数



複数回評価を実施している企業があるため、合計354件にはなりません

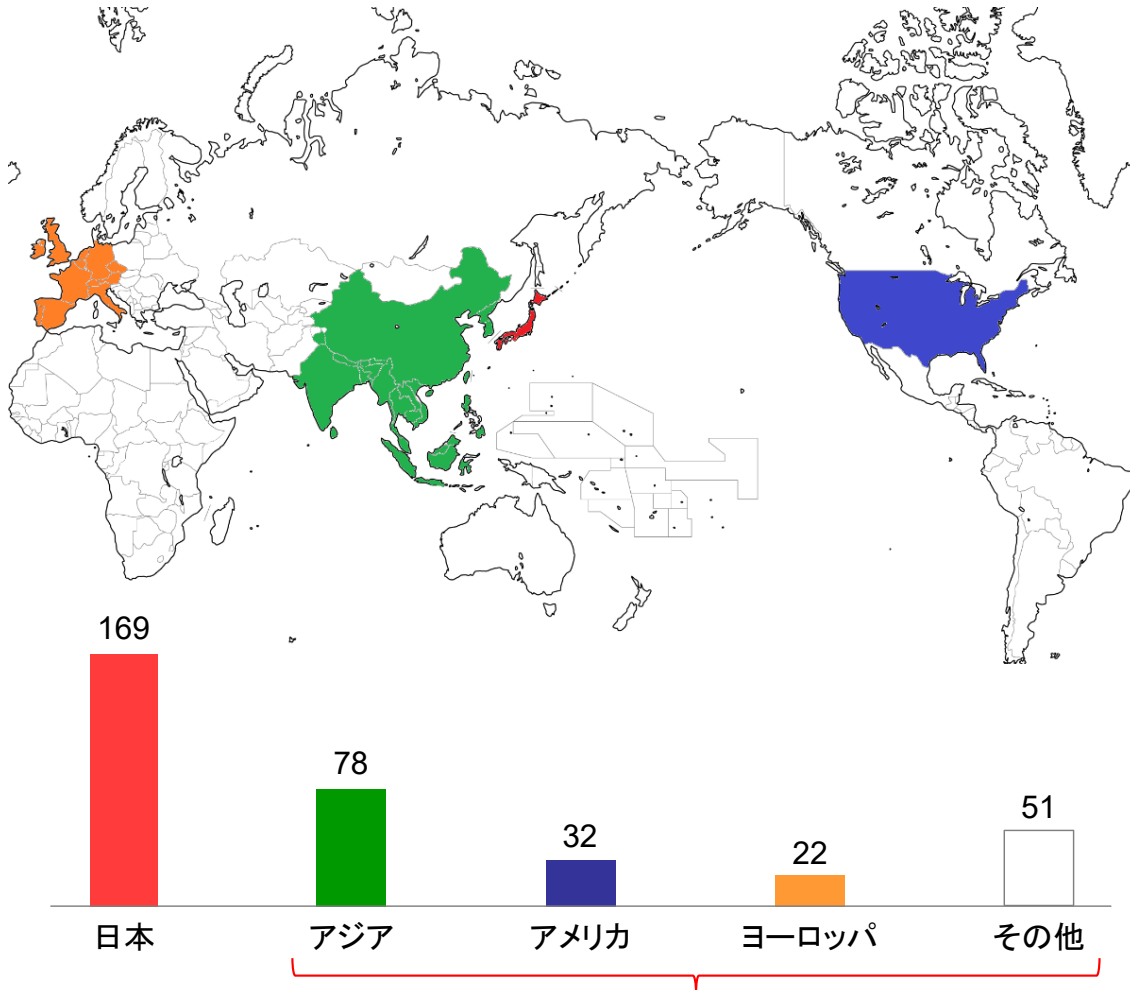
バリュエーションの取組実績: 対象企業の概要

- 評価対象企業については、日本企業が最も多くなっていますが、全体の約50%はアジアやアメリカを中心とした海外企業です。
- 業種や規模についても、売上規模30億円未満～1,000億円超の幅広い業種の企業を対象としています。

2020年5月末時点

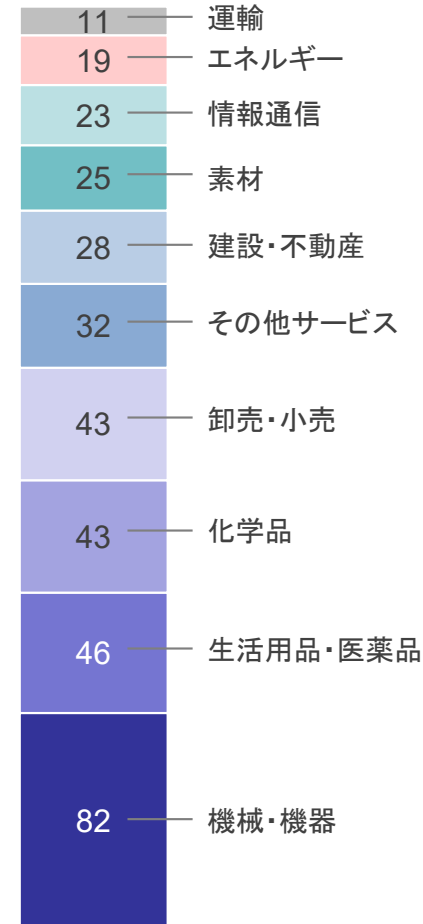
全て単位: 件数

所在地域別

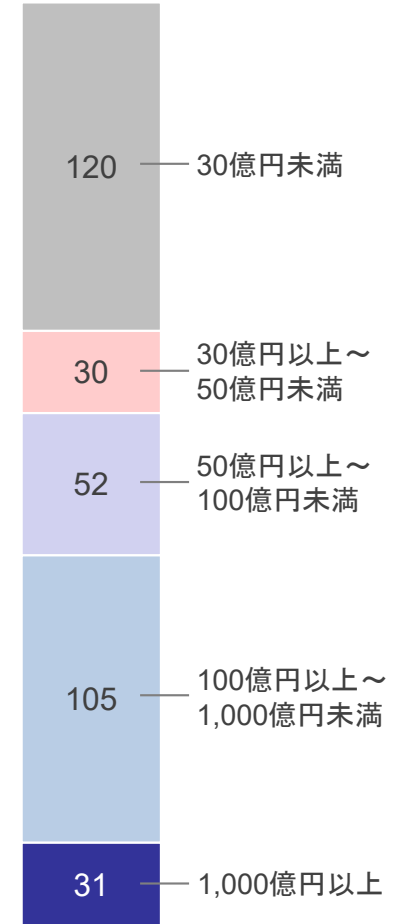


海外評価割合は52%(183件)

業種別



売上規模別



事業開始前の案件もあるため、合計354件にはなりません

バリュエーションの取組実績: 企業価値評価アプローチ

- 企業価値評価においては、評価の目的に応じて、評価対象企業の実態を反映しうる評価手法を選定することが必要となります。
- 弊社で実施した評価手法の中では、DCF法が276件と最多ですが、DCF法は評価対象企業の将来収支予測や事業計画がその評価の基礎となるため、事業計画作成や財務モデルのシミュレーション実施を含めて、弊社にご依頼頂くケースが多くなっています。

2020年5月末時点

評価手法

単位: 件数

評価アプローチ	評価手法	実施件数
インカム アプローチ	DCF法 将来生み出されるキャッシュフローをベースに事業価値を評価	276
	収益還元法 将来の予測利益を資本コストで割引くことにより、事業価値を評価	16
マーケット アプローチ	類似企業比較法 株式市場における類似企業の評価をもとに企業価値を評価	19
コスト アプローチ	修正純資産法 簿価純資産から評価時点までの判別し得る含み損益を加減し、純資産を修正する方法	17

企業価値評価・株主価値評価を集計対象としており、無形資産評価(24件)は対象外としています